

工学部 交通機械工学科 2025年度卒業

三重県 高等学校・工業（機械系）／滋賀県 高等学校・工業（機械系） 合格

私はこの度、三重県教員採用試験の高等学校・工業（機械系）と滋賀県教員採用試験の高等学校・工業（機械系）で合格することができました。合格することができたのは、教職課程の先生方や、ともに教員採用試験に向けて取り組んだ仲間など、支えてくださった方々のおかげだと考えており、とても感謝しています。

私は三重県の教員採用試験が本命であったため、三重県の採用試験に向けて取り組んだことを中心にお話したいと思います。

三重県の教員採用試験は、1次試験が筆記、2次試験は論述と模擬授業、面接でした。1次試験の教職教養は基本的に暗記問題のようなものなので、過去問を繰り返し解き、内容を覚えることに力を入れました。過去問は三重県以外の過去問も解き、過去問集1冊につき3周程度はしたと思います。滋賀県の筆記試験の方では、滋賀県独自の取り組みに関することが出題されることがあったので、志望する自治体のHPをしっかりと確認しておくことも重要だと思います。専門教養では、三重県庁で過去5年分の問題を手に入れることができますが、教科書の例題や章末問題に類似した問題が出るが多いため、過去問よりも教科書を使用して勉強していました。1次は教職教養と一般教養が合計50点、専門教養150点と専門教養の方が、配点が大きいですが、専門教養は高校生の時に一度学んでいる内容であるため、知識を定着させるのに時間を要しないと考えたため、教職教養と専門教養では7対3くらいの配分で勉強を行いました。

2次試験は、まず論述試験を行い、後日に模擬授業と面接を行うという形でした。論述試験は専門教養と同様に三重県庁で過去問が入手できます。論述問題は小論文の書き方がわかっているとしても、いざ自分の考えを文章にしようとするのが難しく時間との戦いになってしまうので、普段から新聞を読むなどして文章に触れる機会を作っておくとよいと思います。模擬授業は3人一組で行われます。3つのテーマの中からランダムで割り振られた内容の模擬授業を4分行い、その後10分程度で自分の模擬授業の反省や、互いの模擬授業についての批評を行います。自分の模擬授業をうまく行うことも重要ですが、他の受験者の模擬授業に対する着眼点なども評価される試験なので、大学で他の生徒の模擬授業を見るときなどから、自分ならどのように授業を行うかを考えながら見学するとよいと思います。三重県の面接試験は、試験前に提出した面接シートをもとに行われます。そのため、大まかな質問の内容はわかっている状態なので対策がしやすいと思います。

最後になりますが、結局のところ筆記試験も面接や模擬授業なども一番の対策は数をこなすことだと思います。筆記試験は範囲が広いですし、模擬授業や面接は緊張しますし採用試験に対して大きな不安があるとは思いますが、地道に勉強していった自分に自信が持てるくらいまで力をつければ、おのずと合格が見えてくると思います。頑張ってください。